

2 食をめぐる現状 取り組みの成果と課題

「(1) 食生活」、「(2) 生活習慣」、「(3) 食と地域」の3つに分類し、前計画時からの項目は「**継続**」とし本計画から新たに設定した項目については「**新規**」とした。前計画時、数値目標があるものは比較した。

(1) 食生活について																																																																					
I 朝食の欠食率 継続																																																																					
①現状と課題	<p>朝食を毎日食べることは、基本的な生活習慣を身につけるために重要です。また、朝ごはんは1日のパワーの源であり、寝ている間に低下した体温を上昇させる働きがあります。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児、中3の欠食率は県と比較して低く、小4、高3の欠食率は県に比べて高い結果となった。 ・年齢が上がるにつれて「食べない」と回答した者の割合が増えており、高3においては、年々改善はしているが、依然14.9%の生徒が朝食を欠食しているという結果となった。 ・目標指標を達成したのは、小4のみであった。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝ごはんの時間をとれるような生活リズムが確立できるよう普及する必要がある。 ・食べる環境づくりや手軽に作れる朝食作りの普及を図ることが必要である。 																																																																				
②評価指標	<p>朝食を欠食する人の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2"></th> <th>策定時</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th rowspan="2">実績値データ</th> </tr> <tr> <th>H23</th> <th></th> <th>H28</th> <th>H34</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3歳児</td> <td>町</td> <td>7.4%</td> <td>-</td> <td>3.2%</td> <td>2.2%</td> <td>町健診データ (H28)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>3.8%</td> <td>2.0%</td> <td>3.7%</td> <td>0.0%</td> <td>がん等疾病予防支援システム (H27)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">小4</td> <td>町</td> <td>6.0%</td> <td>7.0%</td> <td>5.7%</td> <td>4.0%</td> <td>町教育委員会 生活調査 (H28)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>2.1%</td> <td>1.0%</td> <td>3.1%</td> <td>0.0%</td> <td>がん等疾病予防支援システム (H28)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中3</td> <td>町</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> <td>2.6%</td> <td>1.9%</td> <td>町教育委員会 生活調査 (H28)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>6.0%</td> <td>2.5%</td> <td>8.2%</td> <td>0.0%</td> <td>がん等疾病予防支援システム (H28)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高3</td> <td>町</td> <td>15.9%</td> <td>13.5%</td> <td>14.9%</td> <td>10.4%</td> <td>がん等疾病予防支援システム (H28)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>11.9%</td> <td>8.0%</td> <td>13.1%</td> <td>0.0%</td> <td>がん等疾病予防支援システム (H28)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H34の目標値は健康いわずみ21プランを参考に現状を考慮して設定。</p>						項目		策定時	目標値	実績値	目標値	実績値データ	H23		H28	H34	3歳児	町	7.4%	-	3.2%	2.2%	町健診データ (H28)	県	3.8%	2.0%	3.7%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H27)	小4	町	6.0%	7.0%	5.7%	4.0%	町教育委員会 生活調査 (H28)	県	2.1%	1.0%	3.1%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)	中3	町	0.0%	0.0%	2.6%	1.9%	町教育委員会 生活調査 (H28)	県	6.0%	2.5%	8.2%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)	高3	町	15.9%	13.5%	14.9%	10.4%	がん等疾病予防支援システム (H28)	県	11.9%	8.0%	13.1%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)
項目		策定時	目標値	実績値	目標値	実績値データ																																																															
		H23		H28	H34																																																																
3歳児	町	7.4%	-	3.2%	2.2%	町健診データ (H28)																																																															
	県	3.8%	2.0%	3.7%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H27)																																																															
小4	町	6.0%	7.0%	5.7%	4.0%	町教育委員会 生活調査 (H28)																																																															
	県	2.1%	1.0%	3.1%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)																																																															
中3	町	0.0%	0.0%	2.6%	1.9%	町教育委員会 生活調査 (H28)																																																															
	県	6.0%	2.5%	8.2%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)																																																															
高3	町	15.9%	13.5%	14.9%	10.4%	がん等疾病予防支援システム (H28)																																																															
	県	11.9%	8.0%	13.1%	0.0%	がん等疾病予防支援システム (H28)																																																															
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のリズムを大切に、規則正しく食べる人の増加。 ・朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加。 																																																																				
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら朝食を摂取できる力を培うため、望ましい生活リズムを確立するため「早寝、早起き、朝ごはん」を普及する。 ・家庭からお弁当を持参する高校生については、養護教諭や家庭科教諭等と連携し、食育の取り組みを行う。 																																																																				
⑤関係機関	町内児童福祉施設、学校、教育委員会、町																																																																				

(1) 食生活について

Ⅱ 野菜の摂取状況 継続

①現状と課題

野菜や果物にはビタミンや食物繊維が豊富に含まれていて、がんや高血圧、心臓病等の生活習慣病の予防のために毎日摂取することが効果的であるとされています。また、成人ではひとり一日あたり野菜を 350 g 以上摂ることを目標としています。(緑黄色野菜 120 g、淡色野菜が 230 g)

現状)

- ・当町における摂取量は、294.4g となり、充足率は 84.1%であった。
- ・岩手県での摂取量は 292.5g で、充足率 83.6%。全国では 277.1g で充足率は 79.1%であった。
- ・年代別摂取量では、20代で特に少ない。町では、60代以上では目標である 1日 350g 以上摂ることができていたが、それより若い年代では目標に達していないという結果となった。

課題)

- ・野菜を手軽に食べられるための環境づくりが必要である。(産直の活用等)
- ・野菜を食べる習慣づくりや簡単に作ることでできるレシピ等の普及が必要である。

②評価指標

成人 1 日の野菜摂取量

項目		策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ
野菜 摂取量	町	277.4 g	350 g	294.4 g	350 g	食育アンケート (H29)
	県	-	350 g	292.5 g H28	350 g H32	国民健康・栄養調査 (H28)
	国	-	350 g	277.1 g H28	350 g H32	国民健康・栄養調査 (H28)

項目		20代	30代	40代	50代	60代	70代～
年代別 摂取量	町	227.9 g	258.6 g	235.6 g	242.6 g	357.4 g	351.1 g
	県	-	-	-	-	-	-
	国	232.1 g	245.4 g	246.0 g	271.8 g	304.8 g	300.6 g

食育アンケート (H29)、国民健康・栄養調査 (H28)

③目標

- ・新鮮な野菜、果物、海藻を摂る人の増加。
- ・いろいろな食材をバランスよく食べて、生活習慣病予防の意識が向上する人の増加。
- ・大人 1 日 350g 以上の野菜を摂取する人の増加。

④具体的対策

- ・1日 5品 (5皿) 以上の野菜料理を食べるよう普及する。
- ・20代における摂取量を増やすよう普及する。
- ・野菜の価格高騰、災害や天候による野菜不足の状況を踏まえつつ、手に入りやすい野菜を積極的に使う等の工夫や、摂取の効果について普及する。

⑤関係機関

町内児童福祉施設、学校、生産者、企業、教育委員会、町

(1) 食生活について

Ⅲ主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日2回以上食べる人の割合 新規

①現状と課題

健全な食生活を実践するためには、栄養バランスに配慮した食事を習慣的に摂ることが必要です。そこで、バランスのとれた食事を摂るためには、食事を作ったり、選んだりする時に、主食、主菜、副菜を組み合わせることが必要です。

現状)

- ・主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日2回以上食べる人の割合は、56.7%となった。
- ・若い世代に関しては、41.9%が揃えて食べていると回答した。

課題)

- ・幼少期から主食・主菜・副菜を習慣的に揃える取り組みのため、保護者への指導が必要である。
- ・出来合いの物に頼ることなく、食事バランスに配慮した手作りの食事を摂るよう指導する必要がある。

②評価指標

主食・主菜・副菜を揃えた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べる人の割合

項目		策定時	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ
ほぼ毎日食べる (上段：全年代 下段：若い世代)	町	-	新規	56.7% 41.9%	70.0% 55.0%	食育アンケート (H29)
	県	-	-	68.8% H24	-	県民生活習慣実態調査 (H24) [県計画]
	国	56.7% H27	60%以上 H27	57.7% 43.2% H27	70%以上 55%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]

③目標

- ・偏食を避け、栄養バランスのとれた食事を心がける人の増加。
- ・バランスの良い食事と、きちんと味わって食べる人の増加。

④具体的対策

- ・幼い頃から、お皿を揃えた食事を摂る習慣をつけるよう啓発する。
- ・一品料理ばかりにならないように、いろいろなメニューの提案をする。
- ・こども園や学校給食等の機会を利用し、バランスのとれた食事を身につける。
- ・成人期における健康教室等を活用し、地域でも啓発する機会を増やす。
- ・主食・主菜・副菜の栄養バランスを理解できるように指導する。

⑤関係機関

地域、学校、児童福祉施設、地域住民、教育委員会、町

(2) 生活習慣について

I 肥満の割合

継続

①現状と課題

子どもの肥満の原因として、身体を使って遊ぶ機会が減ったことや、偏った食事や夜型の食生活にあると言われていています。更に子どもの頃の肥満は大人なってからも解消されにくく、糖尿病や高血圧などの大きなリスクとなります。

現状)

- ・3歳児の肥満は改善傾向で、それ以外は県の値より高い結果となった。
- ・小4の肥満割合は、高校生より高い結果となった。
- ・成人においては全国、県と比較しても依然肥満割合は38.6%と高い傾向にある。

課題)

- ・若年性の肥満が成人期の生活習慣病に移行しないよう、特に学童期での肥満予防の取り組みが必要である。その一方、「やせ」においても指導が必要である。
- ・食生活と併せた運動や生活習慣の指導など連携が必要である。

②評価指標

肥満者の割合

項目		策定時 H23	目標値	実績値 H28	目標値 H34	実績値データ
3歳児	町	6.0%	-	3.4%	減少	がん等疾病予防支援システム (H27)
	県	6.8%	-	5.1%	-	がん等疾病予防支援システム (H27)
小4	町	15.0%	-	20.8%	減少	岩泉町学校保健のまとめ (H28)
	県	11.0%	-	11.6%	-	がん等疾病予防支援システム (H28)
中3	町	21.2%	-	13.6%	減少	岩泉町学校保健のまとめ (H28)
	県	9.3%	-	9.7%	-	がん等疾病予防支援システム (H28)
高3	町	10.1%	-	14.9%	減少	がん等疾病予防支援システム (H28)
	県	11.3%	-	12.6%	-	がん等疾病予防支援システム (H28)

肥満者の割合 (成人)

項目		策定時 H23	目標値	実績値 H27	目標値 H34	実績値データ
成人	町	39.7%	-	38.6%	減少	特定健診・特定保健指導領域単純集計 (H27)
	県	28.9%	-	29.9%	-	特定健診・特定保健指導領域単純集計 (H27)
	国	25.9%	-	26.0%	-	国民健康・栄養調査 (H28)

③目標

- ・1日3回の食事や間食のリズムをとれる人の増加。
- ・バランスのとれた食生活と運動を大切にする人の増加。

④具体的対策

- ・小さい頃からの肥満予防に対する取り組みを各関係機関と連携し実施する。
- ・自分の適正体重を知り、それぞれの状況に合わせた食生活を送れるよう啓発する。
- ・体重を計る習慣を身につける。

⑤関係機関

家庭、町内児童福祉施設、学校、教育委員会、町

(2) 生活習慣について

Ⅱ 食育の認知度・食材への関心度 食育に関心のある町民の割合 継続

①現状と課題	<p>一人ひとりが食育に関心を持ち、食育の重要性を認識すること、自らの意思で日常的に食育に取り組み、実践を心がけることが重要です。ライフスタイルの変化や家族形態の多様化に応じて、地域等での食育を進める必要があります。また、不適切な食習慣は長期に継続しがちであることも踏まえ、特に若い世代への食に対する意識改善を喚起する必要があります。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関心がありますかという問いに、「食育に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した町民の割合は78%となっており、過去の数値の中で一番高い値となったが、県では91.2%（平成26年度）となっている。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各世代に食育に関心を持ってもらえるような取り組みを行なう必要がある。 ・食育推進運動を重点的かつ効果的に展開するため、食育に関する情報の発信や体験活動等に力を入れる必要がある。 																										
②評価指標	<p>食育に関心がある人の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">項目</th> <th style="width: 10%;">策定時 H23</th> <th style="width: 10%;">目標値</th> <th style="width: 10%;">実績値 H29</th> <th style="width: 10%;">目標値 H34</th> <th style="width: 40%;">実績値データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;">関心がある</td> <td>町</td> <td>62.5%</td> <td>-</td> <td>78.0%</td> <td>90.0%</td> <td>食育アンケート（H29）</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>91.2% H26</td> <td>-</td> <td>希望郷いわてアンケート （H26）〔県計画〕</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>75.1% H20</td> <td>90%以上</td> <td>75.0% H27</td> <td>90%以上 H32</td> <td>内閣府調査 （H27）〔国計画〕</td> </tr> </tbody> </table>		項目	策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ	関心がある	町	62.5%	-	78.0%	90.0%	食育アンケート（H29）	県	-	-	91.2% H26	-	希望郷いわてアンケート （H26）〔県計画〕	国	75.1% H20	90%以上	75.0% H27	90%以上 H32	内閣府調査 （H27）〔国計画〕
	項目	策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ																					
関心がある	町	62.5%	-	78.0%	90.0%	食育アンケート（H29）																					
	県	-	-	91.2% H26	-	希望郷いわてアンケート （H26）〔県計画〕																					
	国	75.1% H20	90%以上	75.0% H27	90%以上 H32	内閣府調査 （H27）〔国計画〕																					
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食育について関心や考える機会をもつ人の増加。 ・地元食材に触れる機会を増やす取り組みの増加。 																										
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーちゃんねっとやホームページなどの各種広報媒体を通じて、食育の取り組みに関する情報を町民に配信する。 ・さまざまな関係機関を巻き込み、食育の取り組みを広め、町民の関心度を高める。 ・食育推進運動を重点的かつ効果的に展開するため、毎年6月の「食育月間」及び毎月19日の「食育の日」のほか、「いわて減塩・適塩の日」や「いわて家庭の日」、「いわて食財の日」などの食育に関連する行事も活用しながら、岩手県食育推進ネットワーク関係団体と連携し、食育の普及啓発活動を実施する。 																										
⑤関係機関	教育委員会、各小中学校、児童福祉施設、地域住民、町																										

(2) 生活習慣について

Ⅲ食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている町民の割合 継続

①現状と課題	<p>食品の選び方や適切な調理・保管の方法等について基礎的な知識を持ち、その知識を踏まえて行動することが重要です。今や食材そのものが世界中から集められ、ますます食品の安全性等は、複雑で多様化することが考えられます。</p> <p>町民自らの判断で食品を正しく選択出来るよう、食の自己管理能力を高める取り組みが必要となってきます。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食品を購入する際、産地や成分を確認しますか」との問いには「いつも確認する」「確認する」と回答した者が 64.6%となった。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性や食品の産地成分などを確認する事を学ぶ機会を設ける必要がある。 																										
②評価指標	<p>食品を購入する際、産地や成分を確認する人の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">策定時 H23</th> <th style="width: 10%;">目標値</th> <th style="width: 10%;">実績値 H29</th> <th style="width: 10%;">目標値 H34</th> <th style="width: 45%;">実績値データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="width: 15%;">産地や成分を確認する (上段：全年代 下段：若い世代)</td> <td style="width: 5%;">町</td> <td style="width: 10%;">56.4%</td> <td style="width: 10%;">-</td> <td style="width: 10%;">64.6% 63.1%</td> <td style="width: 10%;">80.0% 65.0%</td> <td style="width: 45%;">食育アンケート (H29)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>89.0%</td> <td>-</td> <td>85.0% H26</td> <td>-</td> <td>県民生活基本調査 (H26) [県計画]</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>72.0% 56.8% H27</td> <td>80%以上 65%以上 H32</td> <td>内閣府調査 (H27) [国計画]</td> </tr> </tbody> </table>	項目		策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ	産地や成分を確認する (上段：全年代 下段：若い世代)	町	56.4%	-	64.6% 63.1%	80.0% 65.0%	食育アンケート (H29)	県	89.0%	-	85.0% H26	-	県民生活基本調査 (H26) [県計画]	国	-	-	72.0% 56.8% H27	80%以上 65%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]
項目		策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ																					
産地や成分を確認する (上段：全年代 下段：若い世代)	町	56.4%	-	64.6% 63.1%	80.0% 65.0%	食育アンケート (H29)																					
	県	89.0%	-	85.0% H26	-	県民生活基本調査 (H26) [県計画]																					
	国	-	-	72.0% 56.8% H27	80%以上 65%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]																					
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・若い年代から食材を選択する力や成分表示を確認する習慣を身につける人の増加。 ・個人が食品購入の際、成分表示を確認する習慣を身につける。 																										
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーちゃんねつとやホームページなどの各種広報媒体を通じて、食育の取り組みに関する情報を町民に配信する。 ・常に産地や栄養表示を確認する習慣を身につけるよう、各ライフステージにおいて啓発をする。 ・食の安心、安全について、消費者、生産者、食品関連業者、行政等が情報などを共有し、学ぶ機会を設ける。 																										
⑤関係機関	教育委員会、各小中学校、児童福祉施設、地域住民、町																										

(2) 生活習慣について

IV嗜好飲料の摂取状況 継続

①現状と課題

嗜好品の摂取による肥満などの身体への影響を考慮し、正しい知識を普及することが重要です。

現状)

- ・1週間に缶コーヒー、ジュースを「ほとんど飲まない」と回答した町民が40.3%、栄養ドリンクについては、「ほとんど飲まない」と解答した町民が69.3%であった。策定時と比べると、「ほとんど飲まない」と回答した町民が多くなった。
- ・缶コーヒー、ジュース、栄養ドリンクを飲まない町民が増加した一方、1週間に7本以上飲む町民も増えている。50代で2名、60代で2名、70代で4名が両方ともに1週間に7本以上飲むと解答した。
- ・検診や健康教室等でもこれらの飲み物について、砂糖の含有量、飲み物の効果や栄養成分等について知る機会を増やし、啓発に取り組んできた。

課題)

- ・飲み物は、習慣的に摂取していることも多く、含まれる糖質や脂質について意識し、体に与える影響について普及啓発により力を入れることが必要である。

②評価指標

1週間に缶コーヒー、ジュース・栄養ドリンクを飲む量

項目		ほとんど飲まない	1～3本	4～6本	7本～	未回答
缶コーヒー ジュース	策定時 H23	30.8%	37.8%	18.6%	11.6%	1.2%
	実績値 H29	40.3%	32.7%	10.7%	15.3%	1.1%
	目標値 H34	45.0%	-	-	-	-
栄養 ドリンク	策定時 H23	53.8%	32.0%	9.0%	2.7%	2.7%
	実績値 H29	69.3%	21.1%	4.8%	2.9%	1.9%
	目標値 H34	75.0%	-	-	-	-

嗜好飲料の摂取状況

飲まない	飲む
40.1%	59.9%

③目標

- ・嗜好品の摂取による身体への影響について、学ぶ機会を持つ人の増加。

④具体的対策

- ・乳幼児健診等を活用し、幼い頃から嗜好品の摂取についての指導を行う。
- ・検診や研修会等にあわせ、飲み物についての展示等を行い、これらの飲料に含まれる砂糖や脂肪について実感する機会をつくり、啓発に繋げる。

⑤関係機関

家庭、各小中学校、児童福祉施設、企業、地域住民、教育委員会、町

(2) 生活習慣について																																				
V ゆっくりよく噛んで食べる人の割合 新規																																				
①現状と課題	<p>口腔機能が十分に発達し、維持されることは重要です。また、噛み方や食べる早さは口腔の健康や口腔の機能・維持・向上のための重要な要素となります。</p> <p>また、よく噛んで食べることで消化吸収を助け肥満予防に効果があると言われてい ます。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆっくりよく噛んで食べている」もしくは「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」と回答した町民は 48.3%であった。 ・国では、平成 27 年度に 49.2%となり、平成 32 年度までに、55%以上とすることを目標としている。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早食いの人が多いことから、ゆっくり良く噛んで食べる人が増えるよう啓発する必要がある。 ・歯ごたえのある食材選びや調理法について普及する必要がある。 																																			
②評価指標	<p>ゆっくりよく噛んで食べる人の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">策定時</th> <th rowspan="2">目標値</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> <th rowspan="2">実績値データ</th> </tr> <tr> <th>H29</th> <th>H34</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">よく噛んで食べる</td> <td>町</td> <td>-</td> <td>新規</td> <td>48.3%</td> <td>55%</td> <td>食育アンケート (H29)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>49.2%</td> <td>55%以上</td> <td>内閣府調査 (H27) [国計画]</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H27</td> <td>H32</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目		策定時	目標値	実績値	目標値	実績値データ	H29	H34	よく噛んで食べる	町	-	新規	48.3%	55%	食育アンケート (H29)	県	-	-	-	-	-	国	-	-	49.2%	55%以上	内閣府調査 (H27) [国計画]					H27	H32	
項目						策定時	目標値		実績値	目標値		実績値データ																								
		H29	H34																																	
よく噛んで食べる	町	-	新規	48.3%	55%	食育アンケート (H29)																														
	県	-	-	-	-	-																														
	国	-	-	49.2%	55%以上	内閣府調査 (H27) [国計画]																														
				H27	H32																															
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食事を食べる時間に余裕を持ち、食事の時間を楽しく過ごす人の増加。 ・食事はひと口 30 回良く噛んで食べる習慣について理解し、ゆっくり噛むことを習慣化する人の増加。 																																			
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健事業において対象者にあった個別支援、および学校保健との連携をする。 ・むし歯や歯周病予防のための知識を啓発する。 ・定期的に歯科健康診査を受けるよう促す。 ・各年代を対象とする健診、講座等を実施する。 ・口腔の健康づくりのための普及啓発をする。 ・噛ミング 30 (カミングサンマル/ひと口 30 回、よく噛んで食べましょう) を普及する。 ・8020 運動 (80 歳で自分の歯を 20 本以上保とう) を普及する。 																																			
⑤関係機関	家庭、各小中学校、児童福祉施設、地域住民、教育委員会、町																																			

(2) 生活習慣について

VI生活習慣病予防や改善のために普段減塩に取り組んでいる人の割合 新規

①現状と課題	<p>日本人の食事摂取基準（2015年版）において1日の食塩摂取量目標値は、男性8g未満、女性7g未満とされています。平成28年国民健康・栄養調査によると、男女平均した食塩摂取量は9.9gとなっています。町では、平成27年度から新たに特定健診で、尿中クレアチニンから算出した値を出すようになり、男女平均で9.6g、平成28年度では9.43gとなっています。</p> <p>食塩の過剰摂取は高血圧に伴う脳卒中や心臓病、腎臓病の要因とも言われています。このことから、減塩に取り組む人を増やす早急な対応が必要です。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町で実施したアンケートによると、「いつも取り組んでいる」もしくは「気をつけて実践している」と回答した普段減塩に取り組んでいる町民は62.4%であった。 ・国の類似項目である、『生活習慣病予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民の割合』は、平成27年度69.4%となった。平成34年度までに、75%以上とすることを目標にしている。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防や食生活改善に取り組んでいる年代に偏りがあるので、全世代で取り組む必要がある。 ・減塩、運動、禁煙が病気予防に繋がることを周知する必要がある。 																										
②評価指標	<p>生活習慣病の予防や改善のために、普段減塩に取り組んでいる人の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">策定時</th> <th style="width: 10%;">目標値</th> <th style="width: 10%;">実績値 H29</th> <th style="width: 10%;">目標値 H34</th> <th style="width: 45%;">実績値データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="width: 10%;">取り組んでいる</td> <td style="width: 5%;">町</td> <td style="background-color: #ffffcc;">-</td> <td style="background-color: #ffffcc;">新規</td> <td>62.4%</td> <td style="background-color: #ffffcc;">75%</td> <td>食育アンケート (H29)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>69.4% H27</td> <td>75%以上 H32</td> <td>内閣府調査 (H27) [国計画]</td> </tr> </tbody> </table>	項目		策定時	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ	取り組んでいる	町	-	新規	62.4%	75%	食育アンケート (H29)	県	-	-	-	-		国	-	-	69.4% H27	75%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]
項目		策定時	目標値	実績値 H29	目標値 H34	実績値データ																					
取り組んでいる	町	-	新規	62.4%	75%	食育アンケート (H29)																					
	県	-	-	-	-																						
	国	-	-	69.4% H27	75%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]																					
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防のために減塩に取り組む人の増加。 ・住民に向けた普及啓発を通し、生活習慣病予防や改善に繋がったと感じる人の増加。 																										
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教室の開催、食生活の改善を周知し普及する。 ・食生活改善推進員と連携し、各家庭への取り組み（簡単メニューの普及、減塩の呼びかけ、啓発）を行なう。 ・親子を対象とした事業を実施し、幼い頃から食生活の重要性について学ぶ機会を持つ。 ・幼い頃から薄味に慣れる習慣を作る。 																										
⑤関係機関	<p>家庭、地域、各小中学校、児童福祉施設、教育委員会、町、県</p>																										

(3) 食と地域について

I 郷土食の摂取状況 継続

①現状と課題	<p>地域を代表する郷土料理は、その地域でとれた食材を使うことが多く、それらを作り、残すことはふるさとの良さを残すことにも繋がります。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凍み大根、凍み豆腐については全年代で 45.5%、若い世代 (20～30 代) で 30.6% が、「いつも食べる」、「どちらかと言えば食べる」、ひゅうず、豆しつとぎについては全年代 31.8% が、若い世代では 20.3% が「いつも食べる」、「どちらかと言えば食べる」と回答している。 ・一概にこの指標だけでは判断できないが、両評価指標あわせて 38.7% となり、平成 28 年度までに 75% 以上にすることを目標にしていたが、目標値を大きく下回る結果となった。国の計画では、類似した項目となるが、「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合」を平成 32 年度までに 50% 以上に、若い世代では 60% 以上にすることを目標としている。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土食の伝承者の減少や核家族化等で知識がない人が増えているため、伝承の場を設けて郷土食を若い世代に伝えていく必要がある。 						
②評価指標	項目	策定時	実績値 H29		目標値 H34		実績値 データ
			全年代	若い世代	全年代	若い世代	
	凍み大根、凍み豆腐を食べる	80.8%	45.5%	30.6%	-	-	食育アンケート (H29)
	ひゅうず、豆しつとぎを食べる	63.3%	31.8%	20.3%	-	-	
	郷土食を食べる人の割合						
	項目	策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標値 H34	データ	
	郷土食を食べる人 (上段：全年代 下段：若い世代)	町	72.0%	75.0%	38.7%	50%	食育アンケート (H29)
		県	-	-	-	-	
		国	34.6%	-	41.6% 49.3% H27	50%以上 60%以上 H32	内閣府調査 (H27) [国計画]
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土食を伝承するために、各地区に伝わる郷土料理を知っている人の増加。 ・小さい頃から郷土食を自ら作り体験する人の増加。 						
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級などを通じ、郷土食を作る機会を増やす。 ・地域で活躍するボランティア団体の活躍を広め、学校や児童福祉施設等における食文化継承の機会を増やすよう連携する。 						
⑤関係機関	家庭、地域住民、ボランティア団体、教育委員会、各小中学校、児童福祉施設、町						

(3) 食と地域について

Ⅱ 地産地消の取り組み 学校給食の地場食材使用状況 継続

①現状と課題	<p>地元食材を提供することにより、地域の自然や文化、産業への理解を深めるとともに生産者や食に対する感謝の心を育てることに繋がります。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度学校給食における町産品の割合は、29.5%となった。同年 8 月に起きた台風災害の影響を受け、これまで町内でまかなってきた牛乳を提供できなかったことが大きい。平成 28 年度の目標値である 60%には達しなかったが、平成 27 年度では町内産が 59.4%となっていた。 学校給食における県産品の使用割合は、平成 28 年度は 67.1%となり、目標である 72%には達しなかった。なお、平成 27 年度の県産品の割合は 73.7%となっていた。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心、安全、新鮮な地場産野菜の活用について学ぶ機会をもつ必要がある。 																																																					
②評価指標	<p>学校給食における地場産品使用の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>策定時 H23</th> <th>目標値</th> <th>実績値 H28</th> <th>目標値 H34</th> <th>実績値データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl;">地場産物</td> <td>町</td> <td>57.7%</td> <td>60.0%</td> <td>29.5%</td> <td>60.0%</td> <td>町給食センター調査 (H28)</td> </tr> <tr> <td>県</td> <td>39.0% H21</td> <td>45.0%</td> <td>38.5% H26</td> <td>35.0% H32</td> <td>文科省学校健康教育課 (H26) [県計画]</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>23.3% H19</td> <td>30%以上</td> <td>26.9% H26</td> <td>30%以上 H32</td> <td>文科省学校健康教育課 (H26) [国計画]</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl;">県産</td> <td>町</td> <td>70.6%</td> <td>72.0%</td> <td>67.1%</td> <td>72.0%</td> <td>町給食センター調査 (H28)</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>-</td> <td>45.0%</td> <td>87.5%</td> <td>-</td> <td>文科省学校健康教育課 (H26)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: none;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">県産品</td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> <td style="border: none;"></td> </tr> </tbody> </table>	項目		策定時 H23	目標値	実績値 H28	目標値 H34	実績値データ	地場産物	町	57.7%	60.0%	29.5%	60.0%	町給食センター調査 (H28)	県	39.0% H21	45.0%	38.5% H26	35.0% H32	文科省学校健康教育課 (H26) [県計画]	国	23.3% H19	30%以上	26.9% H26	30%以上 H32	文科省学校健康教育課 (H26) [国計画]	県産	町	70.6%	72.0%	67.1%	72.0%	町給食センター調査 (H28)	国	-	45.0%	87.5%	-	文科省学校健康教育課 (H26)										県産品				
項目		策定時 H23	目標値	実績値 H28	目標値 H34	実績値データ																																																
地場産物	町	57.7%	60.0%	29.5%	60.0%	町給食センター調査 (H28)																																																
	県	39.0% H21	45.0%	38.5% H26	35.0% H32	文科省学校健康教育課 (H26) [県計画]																																																
	国	23.3% H19	30%以上	26.9% H26	30%以上 H32	文科省学校健康教育課 (H26) [国計画]																																																
県産	町	70.6%	72.0%	67.1%	72.0%	町給食センター調査 (H28)																																																
	国	-	45.0%	87.5%	-	文科省学校健康教育課 (H26)																																																
		県産品																																																				
③目標	<ul style="list-style-type: none"> 地場産品使用により生産者との関わりや食材のおいしさを味わう機会の増加。 地場産品を使うことで、地元の食材や旬について学ぶ機会の増加。 																																																					
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消の取り組みとして、学校給食共同調理場と連携しながら、産直組合等との連絡調整により、学校給食への地場産食材の利用を促進する。 町内小中学校でのふるさと給食会等、地場産物を利用した給食を積極的に提供し、地元食材への理解を深める。 																																																					
⑤関係機関	生産者、教育委員会、各小中学校、児童福祉施設、地域住民、町（農林水産課）																																																					

(3) 食と地域について

Ⅲ教育ファーム、作物収穫体験の実施状況 継続

①現状と課題	<p>食に関する関心や理解の増進を図るため、農林水産物の生産に関わる機会を提供し、食生活が多くの人の手を支えられていることを体験することは重要です。</p> <p>現状)</p> <p>○教育ファーム事業（学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産体験活動として町内小学校で実施されている。取り組み内容は学校独自となっており、地域に合わせた内容となっている。平成 28 年度は町内の 12 校すべてで実施した。 ・中学校では 1 年生が農林水産体験として実施しているが、平成 28 年度は台風災害の影響で実施できた学校は 5 校中 2 校であった。 ・教育ファームもしくは同等の活動を行っている小中学校は合わせて 14 校となり、平成 28 年度の目標であった 8 校を大きく上回った。 <p>○作物収穫体験事業（児童福祉施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉園に伴い、施設数は減っているが、毎年町内すべての園で取り組むことができおり、目標である 100%を達成した。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培、収穫、食事までの過程を知らないまま育っていく子をなくすために、教育現場で体験する機会が必要である。 															
②評価指標	<p>作物の収穫体験を行っている施設の割合</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項目</th> <th style="width: 15%;">策定時 H23</th> <th style="width: 15%;">実績値 H28</th> <th style="width: 15%;">目標値 H34</th> <th style="width: 35%;">実績値データ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育ファーム実施している小中学校</td> <td>3 校/20 校 (15.0%)</td> <td>14 校/17 校 (82.4%)</td> <td style="background-color: #ffff00;">(100%)</td> <td>町教育委員会 (H28)</td> </tr> <tr> <td>作物収穫体験実施児童福祉施設</td> <td>9 箇所 (100%)</td> <td>7 箇所 (100%)</td> <td style="background-color: #ffff00;">(100%)</td> <td>備考;閉園に伴う施設減少</td> </tr> </tbody> </table>	項目	策定時 H23	実績値 H28	目標値 H34	実績値データ	教育ファーム実施している小中学校	3 校/20 校 (15.0%)	14 校/17 校 (82.4%)	(100%)	町教育委員会 (H28)	作物収穫体験実施児童福祉施設	9 箇所 (100%)	7 箇所 (100%)	(100%)	備考;閉園に伴う施設減少
項目	策定時 H23	実績値 H28	目標値 H34	実績値データ												
教育ファーム実施している小中学校	3 校/20 校 (15.0%)	14 校/17 校 (82.4%)	(100%)	町教育委員会 (H28)												
作物収穫体験実施児童福祉施設	9 箇所 (100%)	7 箇所 (100%)	(100%)	備考;閉園に伴う施設減少												
③目標	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の生産過程を通じて、食べ物の有難さや生産者に感謝する心を育てる場の増加。 															
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育過程の中で、食について学ぶ機会がもてるように、関係機関と連携をとる。 ・食育という言葉の認知度を高めるだけでなく、町民が生産から消費に至るまでの食に関する様々な体験活動を行う。 ・自ら食育推進のための活動を実践することにより食に関する理解を深めることに重点をおいた取り組みに移行していく。 															
⑤関係機関	各小中学校、児童福祉施設、地域住民、教育委員会、町															

(3) 食と地域について						
IV食育の推進に関わるボランティアの状況 継続						
①現状と課題	<p>食育を町全体の運動として推進し、町民一人ひとりの食生活において実践してもらうためには、食生活の改善等を目的とし、各地域で住民の生活に密着した活動に携わる食生活改善推進員等のボランティアが果たしている役割は重要です。</p> <p>現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年以降、食生活改善推進員養成講座を開講しておらず会員増に繋がらなかった。現会員の高齢化も合わせて、会員は年々減少している。 食生活が多様化する中で、地域の郷土料理や伝統食等の食文化を次の世代へ継承することや、食生活が大きく関わる生活習慣病予防のための健康教室などにより、各地域の食生活改善推進員等のボランティアの必要性は高く、今後ますます地域を支える必要な存在となる。 地域における郷土料理などの知識・技術を有した人材として「岩手県食の匠」が中心となり、各地で岩手県食文化の伝承活動を行っている。今後は後継者育成にも力を入れ、次代を担う若い世代への本県の多彩で豊かな食文化や食生活を継承していく必要がある。当町では 8 名が食の匠として活躍している。 <p>課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う活動の縮小により、会員数が減少したことから活動の場を検討する必要がある。 会員数の減少に伴い、食生活改善推進員養成講座を開催し、新規会員を増やす必要がある。 					
②評価指標	食生活改善推進員の人数					
	項目	策定時 H23	目標値	実績値 H29	目標 H34	実績データ
	町	73 人	70 人	60 人	70 人	町食生活改善推進員団体連絡協議会 (H28)
	県	-	-	6,182 人	-	県食生活改善推進員団体連絡協議会 (H29)
③目標	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代、壮年期の男性の会員の増加。 会員を増やし、食育推進に関わる場に積極的に参加する人の増加。 					
④具体的対策	<ul style="list-style-type: none"> 養成講座を開催する（平成 30 年度） 活動について住民への周知や理解を促し、食生活改善について住民一人ひとりが関心をもつことで、養成講座の参加者を増やし会員増に繋げる。 					
⑤関係機関	地域、地域住民、町、県					